大野城 民児協だより

第57号
発行者／大野城市民生委員児童委員連合協議会
会　長　齊藤　裕治
編　集／広報委員会

民生委員・児童委員の皆様へ



大野城市長　堤　かなめ

市長に就任して、早くも1年が経ちました。この間、市政運営に取り組む中で、地域の最も身近な相談役として地域福祉を支えていただいている民生委員・児童委員の皆様の活動の重要性を改めて感じています。

少子高齢化をはじめとする社会の変化に加え、地域のつながりの希薄化などにより、市民の皆様が抱える悩みや課題は複雑化・複合化しています。また、自ら助けを求めることができず、孤立してしまう方をどのように支援につなげていくかも課題となっています。

そのような状況において、民生委員・児童委員の皆様には、市内の各地域で、市民の皆様に寄り添いながら「良き隣人」として、子どもから高齢者にいたるまで、生活に不安を抱える方々の様々な相談に応じ、必要な支援を行うとともに、関係機関につないでいただくなど、本市の福祉の増進に、多大なご尽力をいただいていますことに、心から感謝申し上げます。

本市としましては、これからも、民生委員・児童委員の皆様をはじめ、地域の皆様と手を携え、本市に暮らす全ての人が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるまちづくりをめざし、支援体制の充実など福祉施策の推進に努めてまいります。また、民生委員・児童委員の皆様がより円滑に活動を進められるよう精一杯取り組んでまいりますので、今後ともご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



南地区民児協定例会における取り組み

南地区民生委員児童委員協議会　会長　小坪　清子

南地区民児協の定例会では、委員の幅広い知識向上を図ることを目的とした出前講座や、委員相互間の融和とそれぞれの活動における悩みや活動事例などの発表の場としてグループワークを実施しております。

特にグループワークでは、六人一組の班編成を行い、できるだけ同地区の方は当たらないような班編成をしています。同じ悩みを抱えているということもあり、各班とも毎回活発な意見交換が行われています。このグループワークの中で共通の問題として取り上げられていることが、「訪問した際に玄関のチャイムを鳴らしても、中々出てこられない方が多くなっている」ということや、「一人暮らしの方が近所で話し相手がいなくなり孤立化してきている」という問題です。この様な問題は各地区共通しており、様々な問題についても意見交換が行われています。

高齢化社会の現在、今後もこのような高齢者の一人暮らし世帯が益々増加し、それに伴い私達の負担も増加していくものと思われます。

一方では、私たち民生委員・児童委員の後継者不足も深刻化してきております。そのような後継者不足の解消方法として、全国的には働きながら民生委員・児童委員をされる方が増えてきています。当然、働きながら民生委員・児童委員活動を行うには大変厳しいものがあります。

そこで今後の定例会においては、どうしても定例会に出席できない方に対しては、会議資料はもちろん会議内容を具体的に伝達するなどしてサポートをするとともに、活動しやすい環境づくりに配慮し、より有意義な定例会になるように努力していきたいと考えております。

様々な問題解決策については、行政、地域包括支援センター、社会福祉協議会、地元の公民館の皆様との連携が重要だと思います。

皆様のご支援・ご協力を賜ります様よろしくお願い致します。

地域ネットワーク活動

やるなら楽しく！

中区　福祉部長　藤本多加

中区福祉部の活動は、無理なく楽しく、そして長く継続出来ることを心掛けています。それは地域の皆さまのご理解とご協力、そして公民館に関わる全ての皆さまの温かいご支援、また何よりも福祉部メンバーの惜しみない活動力あってのことです。まずはこの場を借りて厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。これからもよろしくお願い致します。

さて、中区福祉部は昨年度の『福岡県ひとり暮らし高齢者等見守り活動』の知事表彰を頂きました。大野城社協、すこやか長寿課のご推薦に感謝申し上げます。

私たちの見守り活動は、公民館での福祉部活動とセットです。70才以上の独居、昼間独居の方、75才以上の高齢者世帯、また年令に関わらず気になる方を対象に、見守りを了解頂いた方に、毎月安心安全確認の「ふれあい活動」を行っていますが、お宅を訪問させて頂く時に福祉部のミニデイ「かたろう会」の案内をお持ちしています。

「かたろう会」お休みの9・3月には、『中区福祉部便り』を持って行っています。これは健康体操、頭の体操、塗り絵のA3両面印刷です。手ぶらでは訪問しにくく、話題の糸口に一役買った方法となっています。そうやって顔見知りになると、道でお会いした時、お店でお見かけした時も声が掛けやすく、会話も弾みます。

福祉部の年間活動は、前期「音楽サロン」6回、後期「足元気教室」6回、子育てサロン「ひよこっこ教室」7回、「かたろう会」9回、バスハイク1回の自慢の充実度ですが、今年度から中区のオレンジサポーターの皆さんが月1回、「なかよしカフェ」を開催されることとなりました。福祉部も出来る範囲で、出来る形で協力していきたいと思っています。皆さまの見学をお待ちしています。情報交換して楽しい福祉部活動を目指しましょう。



私の胸懐

南地区　民生委員・児童委員　妹尾（せのお）洋子

高校時代から「福岡に来たい」と言っていた孫が、東京から来福しました。大学2年生になります。「はい」の返事、挨拶、脱いだ靴を揃える等の生活習慣が身についています。私の田舎料理も残さず食べてくれます。孫自慢はここまで。

さて、牛頸区から分かれた若草区は、世帯数1，337、人口3，243人、高齢化率24・2％です。民生委員・児童委員3名で担当し、安心安全で住みよい地域を目指しております。

区活動の一例は『若草食堂』です。老若男女・子連れ家族約100名が訪れ、賑やかなひとときを過ごしています。

私の担当地域に、90歳代のご夫婦が何組もいらっしゃいます。お互いを朗らかに労りあい、病気ともうまく付き合い元気もよく、一日を愛おしむかのような丁寧な暮らしぶりです。どなた様も活き活きとされる姿に「年輪を重ねる美しさ」を感じております。人生の大先輩にこれからの生き方と、勇気を与えていただいています。民生委員・児童委員19年、心の宝物であり、大収穫です。



つれづれ

編集後記

今年の夏は猛暑が続きましたが、少しずつ和らぎ始め、季節は秋へと変わろうとしています。

『民児協だより第57号』の発行にあたり、ご多忙中にもかかわらず、ご寄稿いただきました執筆者の方々に、心より御礼申し上げます。

今期、初めて広報紙の編集に携わることになり、期待とともに不安もありました。ですが、とても良い体験をさせていただいています。

今号では、新しく開校しました大野城市立みずほ中学校をご紹介いたしました。委員長をはじめ、担当委員が協議を重ねた結果、みずほ中学校からご寄稿いただくことになりました。

広報委員一同、皆様に親しみを持って読んでいただける紙面をめざし、記事を確認しながら心を込めて仕上げました。

この『民児協だより』が、地域の皆様に民生委員・児童委員の活動がより身近に感じていただくきっかけとなれば幸いです。

広報委員　豊福由美子

みんなの「第二の家」を目指して

大野城市立みずほ中学校　教頭　真子（まなご）　幸太郎

シリーズ 育む

令和8年4月、本校は不登校を経験した生徒たちが「ありのままの自分」を取り戻し、社会的自立を目指す「学びの多様化学校」として開校いたしました。開校から数か月が経ち、1期生18名の生徒たちは、一人ひとりの歩幅で新しい物語を紡ぎ始めています。

本校が教育活動の土台として最も大切にしているのは、生徒にとって学校が安心できる居場所「第二の家」となることです。生徒の中には、これまでの経験から「学校」という言葉や建物そのものに不安を感じてしまう子もいます。そのため、本校では「学校」を「学び舎」と呼び、「先生」を「○○さん」、教室を「ルーム」と呼ぶなど、従来の学校の枠組みにとらわれない温かな言語環境を整えています。

日々の活動では、全員で輪になって対話し他者への理解を深める「まどかタイム」や、社会性を育む「SELタイム」を導入しています。また、「コラボタイム」では瑞穂公園の花植えや地域の方々との交流を通じ、自分の活動が誰かの喜びにつながる「自己有用感」を育んでいます。

学習面においても、他者との比較ではなく、自らの「現在地」を確認しながら、自分のペースで学ぶことを大切にしています。本校には「いつでも、何度でもやり直せる」というルールがあり、一度でうまくいかなくても、学び直して再挑戦した成果を正当に評価します。この仕組みが、生徒たちの「やればできる」という自信へと繋がっています。

本校の校舎は、長年地域で親しまれてきた集会所をご提供いただいたものです。その感謝を胸に、私たちはこれからも地域と共にある「開かれた学び舎」でありたいと願っています。誰一人取り残さない教育の実現に向け、地域の皆様と共に生徒の成長に伴走してまいります。



『SEL』とは…
Social and Emotional Learning の略

大野城市社会福祉協議会を退職して今、思うこと

前大野城市社会福祉協議会
事務局長　馬場　徹



私は、平成4年に大野城市社会福祉協議会（以下「社協」）に入職しました。

入職した当時は、正直いってまだ「地域福祉」もよく理解できていない新米の職員でしたが、それでも周りの方々のあたたかいサポートをいただきながら、地域福祉や在宅福祉などの業務を担当していました。

地域福祉活動に参加させていただいて思ったことは、民生委員・児童委員（以下「民生委員」）が積極的に地域の福祉活動に関わられていて、担当地区で高齢者等の状況を把握されたり、ミニデイなど地域の行事では参加者が元気にされているか、「今日は調子がよくないみたい」と思われたら、声掛けして今の状況を聞き出すような様子を何度も拝見しました。今ではこうした情報を、地域ケア会議で社協だけでなく区長さんや市、地区包括とも情報共有したり、地域福祉推進委員会（福祉部）などでは社協や推進委員さん等とも情報共有されています。

今振り返ってみますと、私が社協で担当した業務の中で、例えば…配食サービス事業で電話を持たない利用者さんがなかなか帰ってこない時、夜に民生委員さんが何度も訪問され無事に帰ってきたことを確認できて市と社協に連絡されたこと。また、福祉資金貸付事業では、当時民生委員は償還（返済）指導もされていて、昼間働いていて銀行に行けない方の家を、民生委員さんが夜や土日に訪問して償還金を預かって社協に持ってこられたことなど、民生委員と社協は様々な場面で密接に関わり合い連携しあうことが多々ありました。

令和8年3月末をもって私は社協を退職しましたが、これからも地域活動のお手伝いができるときは、ぜひ関わっていきたいと思います。長きにわたり大変お世話になりました。本当にありがとうございました。



住みやすい瓦田区へようこそ

中央地区瓦田区　区長　村田　寛

瓦田区は、大野城市中央地区コミュニティに属する歴史と活気にあふれた地域です。「瓦田」の地名は室町時代の史料にも見られ、古くから人々の暮らしが営まれてきました。明治時代には一つの村として発展し、昭和16年に現在の瓦田区として分区されました。長い歴史の中で受け継がれてきた地域の絆は、今も暮らしの中に息づいています。

現在の瓦田区は約3，000世帯、6，600人を超える住民が暮らし、大野城市28行政区の中でも人口の多い地域の一つとなっています。西鉄天神大牟田線の白木原駅や下大利駅、JR大野城駅にも近く、福岡市中心部へのアクセスに恵まれています。近年は西鉄天神大牟田線の高架化が進み、踏切による渋滞や交通の分断が解消されるなど、交通環境も大きく向上しました。また、商業施設や医療機関、教育施設も充実しており、子育て世代から高齢者まで安心して暮らせる利便性の高いまちとなっています。

一方で、瓦田区の魅力は利便性だけではありません。区や公民館を中心に、夏祭りや敬老の日祝賀会、かわらだふれあい食堂、運動会、餅つき大会、どんど焼きなど、多くの行事が開催され、世代を超えた交流が活発に行われています。地域の皆さんが顔の見える関係を築きながら、お互いに支え合う温かな地域づくりが続けられています。

また、子育てサロンや高齢者サロンの開催、防犯パトロールや青色パトロール、登下校時の見守り活動、防災訓練などにも力を入れています。地域の安全・安心を守るため、多くの住民や関係団体が協力しながら活動を続けています。

公民館も地域の身近な相談相手として、子どもから高齢者まで誰もが安心して暮らせる地域づくりに努めています。これからも「お互いさま」の心を大切に、人と人とのつながりを育みながら、笑顔あふれる住みやすい瓦田区を目指してまいります。





生活支援体制整備事業について

大野城市すこやか長寿課　地域包括支援センター
係長　村尾　敦

日頃より、民生委員・児童委員の皆様には高齢者支援の最前線で地域の一人ひとりに寄り添い、温かい活動を行って頂き、心より感謝申し上げます。

本市では、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築を推進しています。その一環として、生活支援体制整備事業を実施しており、地域住民や関係団体が協力して高齢者に関する課題に向き合い、地域全体で高齢者の生活を支える体制づくりを進めています。

具体的には、市全体の高齢者の課題について協議を行う第1層協議体と、地区コミュニティ単位で課題を協議する第2層協議体があり、第1層と第2層協議体が連携・協力しながら課題の解決を目指しています。第2層協議体には、協議体の委員として多くの民生委員・児童委員の方々にご協力いただき、地域の実状を踏まえた貴重なご意見やご提案を頂いております。

また協議体には、地域包括支援センターや社会福祉協議会に配置されている生活支援コーディネーターが運営をサポートし、地域の困りごとや「あったらいいな」という願いを形にし、住民同士の支え合いやサービスをつなぐ役割を担っています。

これまでの取り組み事例として、社会資源をまとめた「暮らしのもやい帳」の発行や、居場所づくりとして「地域カフェ」の開催、買い物支援・移動販売事業の導入などを行ってきました。今後も高齢者が安心して暮らしていける地域づくりに努めてまいりますので、本事業に対するご理解・ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

